

技術概要書（様式）

※別紙2

技術分類	安全・防災 <input checked="" type="radio"/> 維持管理 <input type="radio"/> 環境 <input type="radio"/> コスト <input type="radio"/> ICT <input type="radio"/> 品質 <input type="radio"/> (該当分類に○を付記)																				
技術名称	SCBR工法	担当部署	技術部																		
NETIS登録番号	KK-160042-A	担当者	一ノ瀬 寛幸																		
社名等	オリエンタル白石株式会社	電話番号	092-761-6934																		
技術の概要	<p>1. 技術開発の背景及び契機</p> <p>大規模な地震が発生した場合、橋としての機能を回復するために、支承部周辺を容易に点検できる構造にしておくことは重要です。また、増加する社会資本のメンテナンス作業においても、支承部周辺を簡素化することは、維持管理の効率化にもつながります。オリエンタル白石では、このような課題を解決することを目的に、プレキャストPC部材を用いた新しい工法（SCBR工法）の開発を行いました。SCBR工法は、『PC橋の新しい形式』として、新設構造に適用できる工法です。</p> <p>2. 技術の内容</p> <p>本工法は、プレテンション方式PC連続桁橋の連結部について、施工性・経済性・耐久性・景観などに配慮し、開発した新しい工法です。本工法を用いることで、支承数を大幅に低減したプレテンション方式PC連続桁橋を構築することが可能です。</p> <p>本工法は、中間支点の支承上にプレキャスト横梁を設置し、それを介して主桁を連結する構造です。従来は、一般的なプレテンション方式PC連続桁は2点支承で支持しますが、本工法は1点支承での支持が可能となり、支承数の大幅な減少によるコスト縮減や工期短縮が可能になります。</p> <p>3. 技術の効果</p> <p>本工法は、支承数を大幅に低減することができて、橋脚の小規模化も図ることが可能です。支承部周辺が簡素化された(すっきりとした)構造となることで維持管理も容易になり、景観性の向上も図ることができます。</p> <p>4. 技術の適用範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレテンション方式PC桁での施工が可能です。</li> <li>・クレーン架設が可能となる施工ヤードが確保されていること。</li> </ul> <p>5. 活用実績</p> <table border="0"> <tr> <td>国の機関</td> <td>3 件</td> <td>(九州</td> <td>0件</td> <td>、九州以外</td> <td>3件)</td> </tr> <tr> <td>自治体</td> <td>0 件</td> <td>(九州</td> <td>0件</td> <td>、九州以外</td> <td>0件)</td> </tr> <tr> <td>民間</td> <td>6 件</td> <td>(九州</td> <td>0件</td> <td>、九州以外</td> <td>6件)</td> </tr> </table>			国の機関	3 件	(九州	0件	、九州以外	3件)	自治体	0 件	(九州	0件	、九州以外	0件)	民間	6 件	(九州	0件	、九州以外	6件)
国の機関	3 件	(九州	0件	、九州以外	3件)																
自治体	0 件	(九州	0件	、九州以外	0件)																
民間	6 件	(九州	0件	、九州以外	6件)																

6. 写真・図・表

NETIS登録番号:KK-160042-A

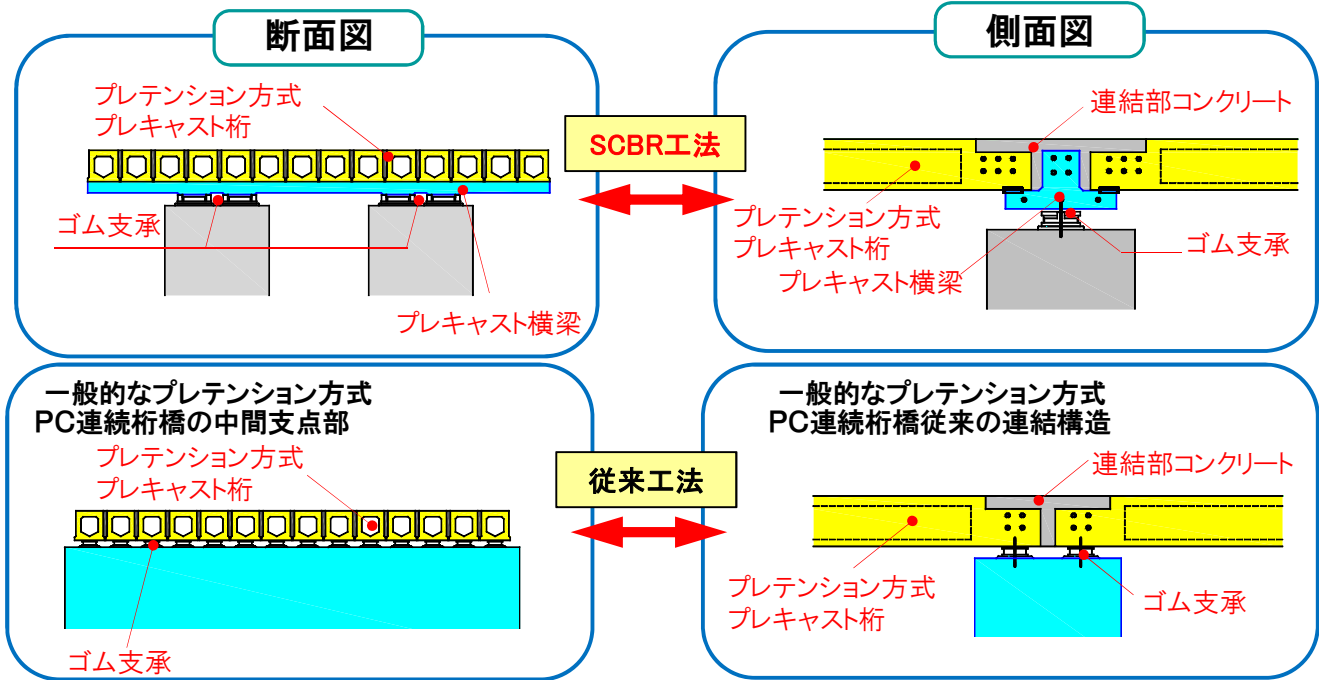


図-1 プレテンション方式PC連続桁橋の従来工法とSCBR工法の違い

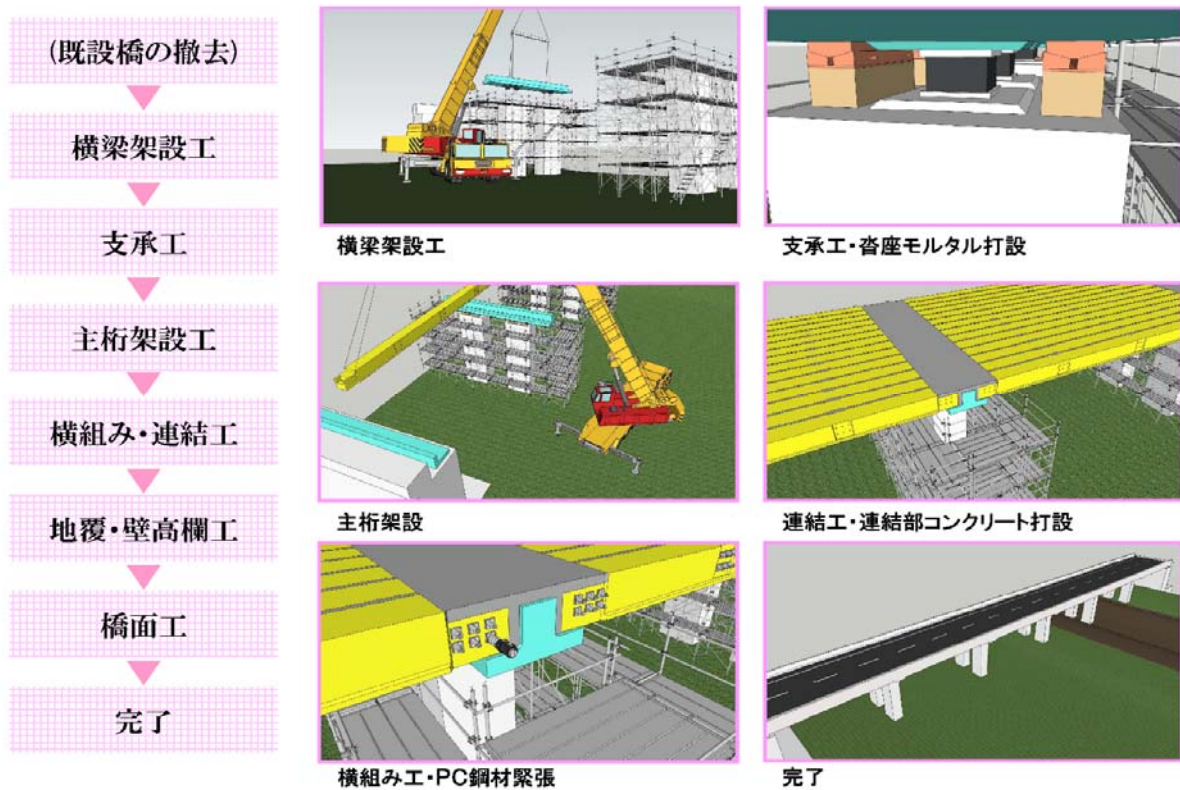


図-2 SCBR工法の施工ステップ